

◎ 2016年度同門会同門会賞受賞



静岡県立静岡がんセンター 大腸外科 医長

山口 智弘 (平成 12 年卒)

同門会の先生方におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。このたび、同門会賞という大変名誉ある賞を頂き、心より感謝いたします。

受賞対象となりました私の研究は、直腸癌におけるロボット手術（ダビンチ手術）に関する臨床研究です。従来型の腹腔鏡下直腸癌手術は、先端が曲がらない鉗子を使用するため、深く狭い骨盤内では技術的難易度が高いと言われています。最近報告された開腹と腹腔鏡下の直腸癌手術を比較した二つの大規模 RCT の結果においては、予後を反映する病理学的因子は腹腔鏡下手術の方が悪く、腹腔鏡下手術の開腹手術に対する非劣性が証明されませんでした。これに対して、先端がよく曲がる鉗子、安定した 3D 高画質画像を使用するロボット手術は、難易度の高い直腸癌手術において特に有用であると期待されています。

当院は、年間約 560 例の原発性大腸癌手術のうち約 130 例の直腸癌に対してロボット手術を施行しています。これまで施行した総計約 580 例のロボット手術の短期成績・予後を学会・論文で報告して参りました。その結果は、開腹手術と比較して、出血量・合併症・機能障害・局所再発が少なく、在院日数が短くなりました。腹腔鏡下手術と比較しても、出血量・機能障害・開腹移行率が少なく、在院日数が短いという結果でした。

また、Learning curve が腹腔鏡下手術と比べて短いことも判明いたしました。すなわち、腹腔鏡下手術よりも早く上達することを意味しますが、この傾向は、腹腔鏡下手術経験が浅い医師の方が顕著であったことも既に報告されています。本検討は、Surgical Endoscopy に「Learning curve for robotic-assisted surgery for rectal cancer: use of the cumulative sum method」という形で掲載され、同門会賞を頂きました。

私がこのような研究を行う環境を与えていただいた、バイオメディカル・イノベーションセンター特任教授 谷 徹先生、そして現環境を支援していただいています外科学講座（消化器外科 乳腺・一般外科）教授 谷 眞至先生には、心より感謝申し上げます。また、同門会の先生方には、日頃ご指導を賜り、誠にありがとうございます。この栄えある受賞をきっかけとして謙虚な気持ちを忘れず、襟を正して、常に努力していく所存です。今後とも、どうぞご指導のほどよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。